

漢字と人間

ズラニク・アダム

《序文》

私の漢字の冒険は、十三歳の時、ニュージーランドのオークランドという町の中学で始まりました。

「漢字をどうやって勉強すれば良いのだろうか」と思って、まずは他の学生と一緒に、反復習得法をやってみました。漢字がどういうものなのか、まだまだ余り分からず、毎日5つの漢字を20回ずつ書き、そのプロセスをまた5回繰り返していました。私のような、日本語を勉強し始めたばかり者には、これぐらいの約100字が読める能力で十分だったのかもしれませんが、日本での生活、日本での勉強を目指している学習者には足りないものに思えました。

私の同級生は皆、日本文化をもっともっと深く知りたかったのですが、たった100字ではそういう目標を達成するのは無理でしょう。

それでは、外国人が常用漢字を習得するには何が必要でしょうか。外国人の場合には、反復習得法ではあまり良くないのではないかと思います。

日本人にとっても、最高の方法ではないと間違いなく言えますが、日本語教育を受けている外国人の場合は、時間が圧倒的に不足するせいで、反復習得法では無理だと思います。私は高校二年になった時、成績が良ければ大学に飛び級で入れるということを耳にしました。そして、直ぐオークランド大学東洋学部の日本語コースに入りたくなり、入学試験の為に色んな準備をしました。様々な日本語の習得方法を研究したり、図書館によく通いました。

その時、素晴らしい発見をしました。反復習得法を止め、James W. Heisig 著「Guide to remembering the Kanji」という本を頼りに、2日間だけで500字ほどマスターできたのです。私は特別記憶力が良い人間ではないし、漢字圏の国に興味はなかったのですが、Heisigの習得方法の効果には吃驚仰天しました。それで、来日して外国人と日本人に使われている漢字習得方法を研究することにし、将来日本と海外の漢字教育の問題を解決しようと決意しました。以下は、今後の漢字習得についての研究の第一段階です。

概要(1)

研究目的

本研究は、新しい漢字記憶法の導入によって日本人と外国人の漢字習得がどう変わるかを考察し、今後の日・韓・中における漢字教育の研究の方向を定めるための示唆を得るこ

とを目的とする。諸外国でも日本でも漢字教育には改善すべきところがあり、本研究で、日本人と外国人の漢字の知識と漢字の習得における問題点を解明できると思える。

研究方法

正確で公平な調査研究を行う為に、広島大学国際交流会館に居住する留学生、広島大学教育学部日本語教育学科の学生、さらにオークランド大学東洋学部の日本語コースの学生に依頼し、さまざまなデータを収集した。そして、これらの情報を分析し、結果を「円グラフ」と「パーセントシリンドーグラフ」によって表した。

研究結果

本研究により、漢字教育には問題がかなりあることがわかった。特に外国で行われる日本語教育の現状を見ると、問題の漢字を読む能力と書く能力における調査結果は、驚くべきものとも言える。調査に協力してくれた多くの日本人学生の意見でも、漢字教育がやや足りないと言っている。結論として、日本語を勉強している外国人だけではなく、日本人の小中高校生も、現在行っている習得法と共に、他の漢字習得法を試してみれば良いと思える。

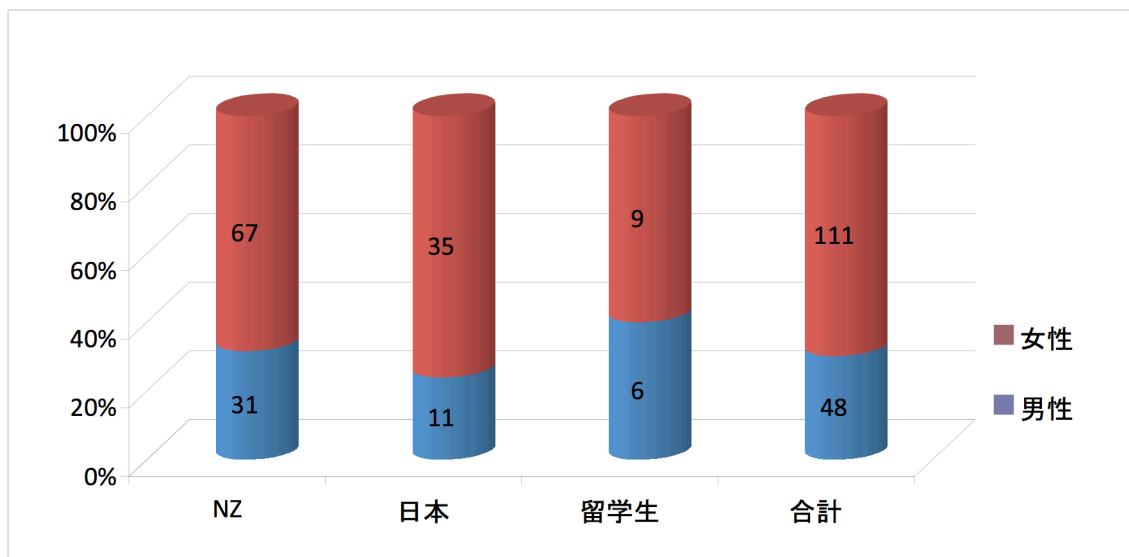
要約

現在、日本の教育でもっともよく使われている漢字習得法（所謂反復習得法）だけに頼らず、他の方法を研究し、試した方が良いと思える。

調査した学生の中には漢字能力の高い日本人が多いと言えるが、やや能力の低い（1400～2000字）人たちの数を見ると、文学などとの関係のない学部の学生の漢字能力は一体どんなレベルなのかと思えてくる。外国人を対象とする日本語教育の場合も大体同じだが、最初段階からは反復法を用いない方が良いようだ。

調査対象の性別

本研究の調査対象者を見てみると、7割位は女性で、三つの調査を合わせても、比率は男性が3割、女性が7割である。



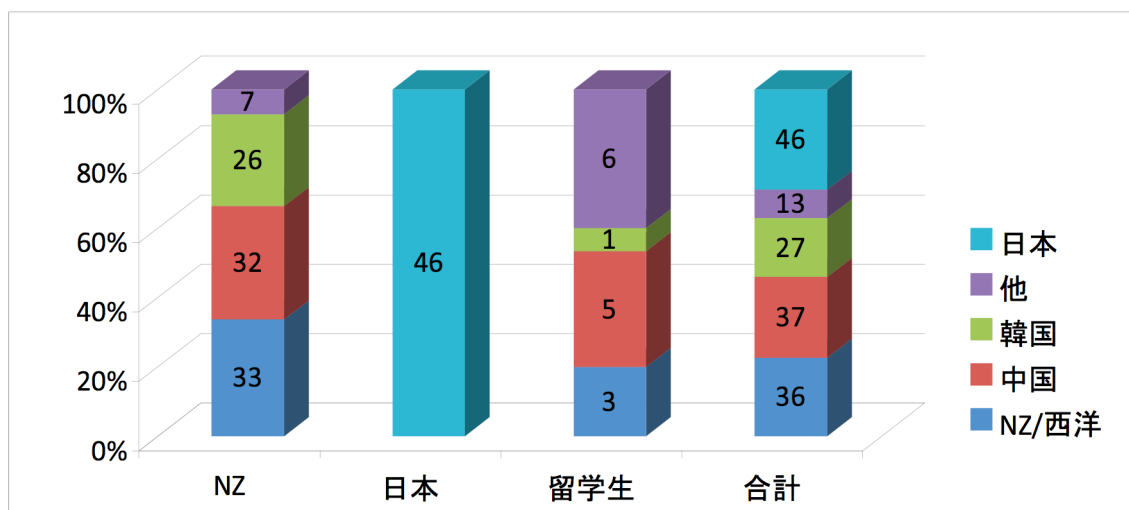
グラフ『調査対象性別』

調査対象国籍

本研究では調査対象者を五つのグループに分けた。日本、中国、ニュージーランド／西洋、韓国と「その他」である。人数が少ない国籍の人たちは「その他」というグループに纏めた。

他の国籍は大体東南アジアや中東の国々などで、ニュージーランド／西洋というグループには英語圏とヨーロッパの国が含まれている。

「中国」というグループには、中国語圏の国（中国、香港、台湾など）が含まれる。

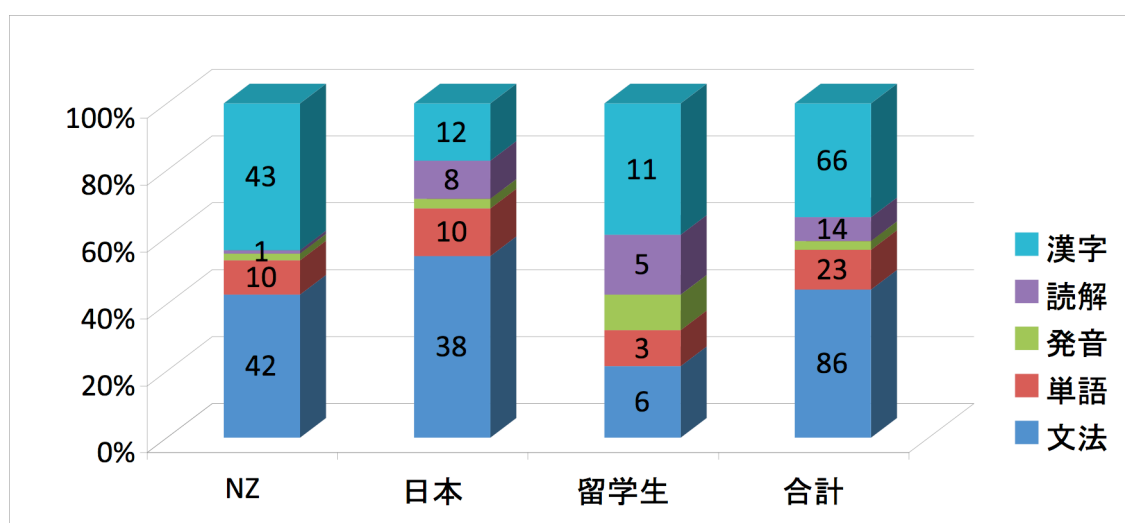


グラフ『調査対象国籍』

日本語の難しい点

調査対象者に、日本語で一番難しいところはどこか尋ねた。調査対象者は、五つの選択肢から二つを選ぶ。文法、単語、発音、読解、漢字である。どのグループでも、文法と漢字の割合が最も大きい。調査対象者の国籍を比べると、中国語圏では漢字より文法の方が難しいと答えている。

一方、中国語圏以外では、漢字の方がずっと難しいと答えている。日本人には文法が一番難しく、二番目はやはり漢字だ。「日本語の難しいところは読解」「日本語の難しいところは単語」と記入された調査用紙がかなりある。「漢字のせいで読解が難しい」とか「難読単語が読みにくい」というような答えが多い。



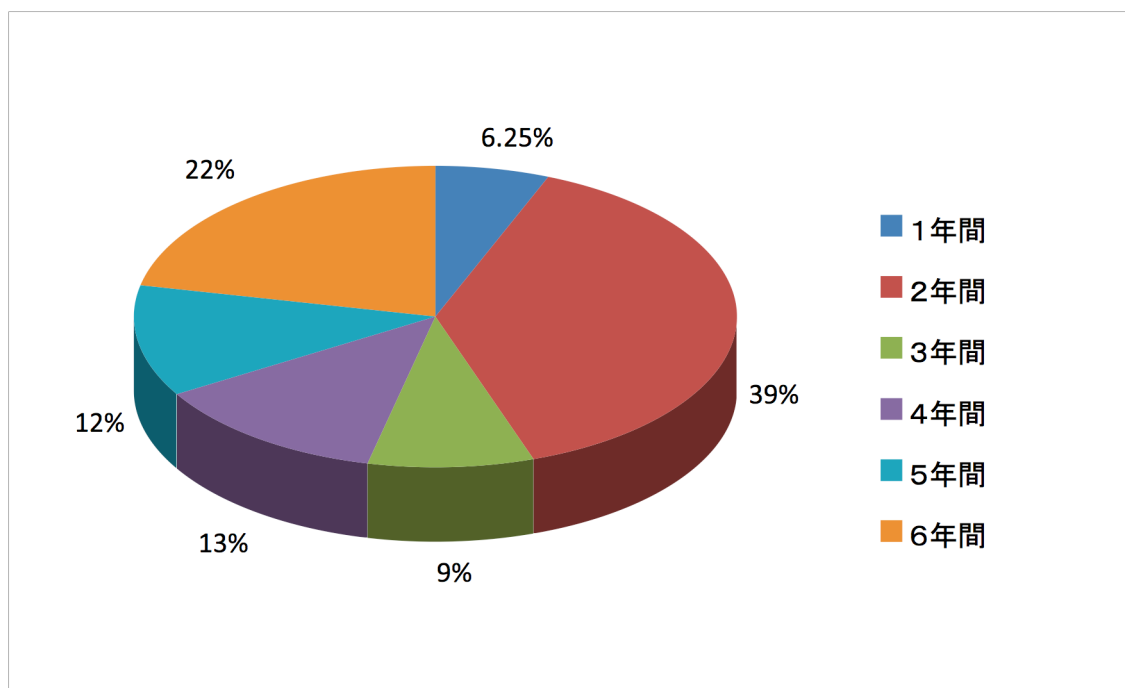
グラフ『日本語の難しい点』

日本語教育の期間

日本語教育の期間というのは、調査対象者がこれまで受けた日本語教育の期間である。この質問も二つの調査に含めた（オークランド大学の学生と広島大学国際交流会館の留学生）。グラフには、日本人は含まれていない。約4割（48%）の回答者が2年から3年ぐらい日本語教育を受けている。また、約4割（47%）が4年から6年ぐらい日本語教育を受けている。残りの6.25%は、約一年の日本語教育を受けている。

オークランド大学の回答者の日本語教育期間を見ると、大きなグループが二つある。一つは2年で、もう一つは6年だ。受けた日本語教育が2年と答えた回答者は、大学で日本語を勉強し始めた者たちで、大学に入学する前は日本語にあまり関心がなかったようだ。大部分のニュージーランドの高校では日本語コースがあるので、「受けた日本語教育は6年間」と答えた回答者は、日本語を中学で学び始めたということだ。中学1年の時（13歳）に学び始めて高校を卒業する（18歳）まで、5年ほど日本語を勉強し、大学に入学する時に、高校で身に付けた日本語能力のおかげで飛び級で直ぐ大学の二年（中級）の日本語コースに登録する学生が多いの。

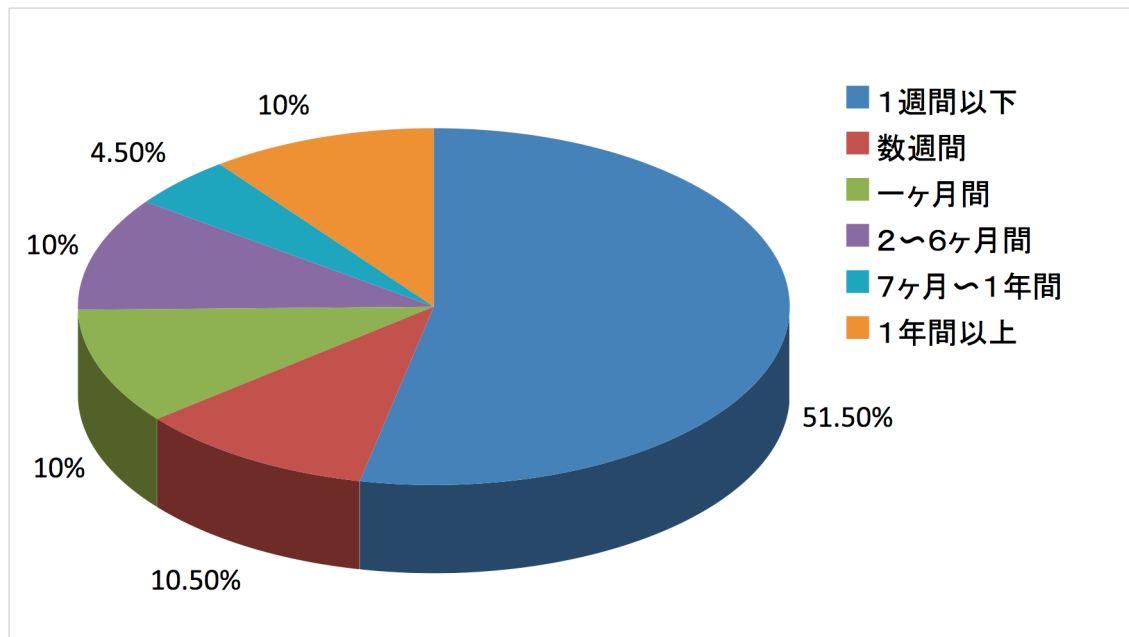
また、留学生の回答を見ると、短期間（一年間）と長期間（数年間）グループに分けることができる。短期間に含めるのは、大体、来日後に日本語を勉強し始めた者たちで、長期間は、来日前に勉強し始めていた者たちだ。



グラフ『日本語教育期間』

日本での滞在期間

日本語教育の期間の場合と同じように、日本人は含まれていない。留学生とオークランド大学の学生が対象のグラフである。オークランド大の学生の大部分（約9割）は日本に行ったことはないが、日本に旅行したことはあると書いている。留学生の多くは現在日本に滞在しているのだが、まだ数カ月しか住んでいないと書いている。「滞在は2年間だった。小さい頃2年ほど日本の幼稚園に通っていたが全く覚えてない」と書かれた調査用紙もある。回答者の多くが、来日前に基本的な日本語教育を受けているので、短期間と長期間の回答者の日本語能力を比べても、滞在期間による能力差はそれほどない。



グラフ『日本滞在期間』

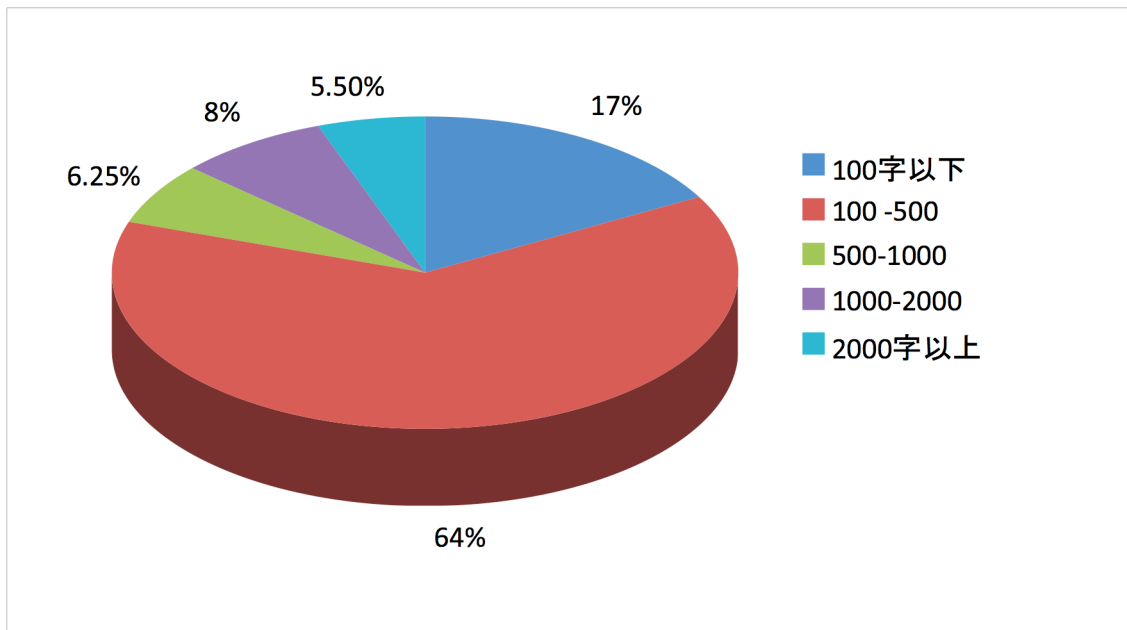
漢字の習得方法 （グラフなし）

漢字の習得方法についての回答を見ると、学生の9割以上が〔一位〕学校だけではなく〔二位〕自分でも漢字を勉強している。他の方法（友人など）に頼っていると思える学生は僅か5人だ。この比率から、どう考えられるだろうか。一つは「漢字教育における学校の責任は大きい」ということ。日本語を学ぼうとして、日本語教育システムが余り改善されていなくても学校に頼るしかない学生は、日本語を充分習得できない恐れがあるので、良いシステムを使うことが必要だと思える。

ここで、この調査に含まれるもう一つの漢字習得法に関する質問の結果に触れておく。たぶんもっとも驚くべき結果と思うが、「Remembering the Kanji」と「A guide to remembering Japanese characters」という漢字学習用の出版物のあることを知っている回答者は、全部で3人。知っていることは知っているのだが、「ご存知なら、この図書をどう思いますか？」という質問には3人とも「聞いたことがあるだけだ」と答えた。

外国人の漢字読み能力

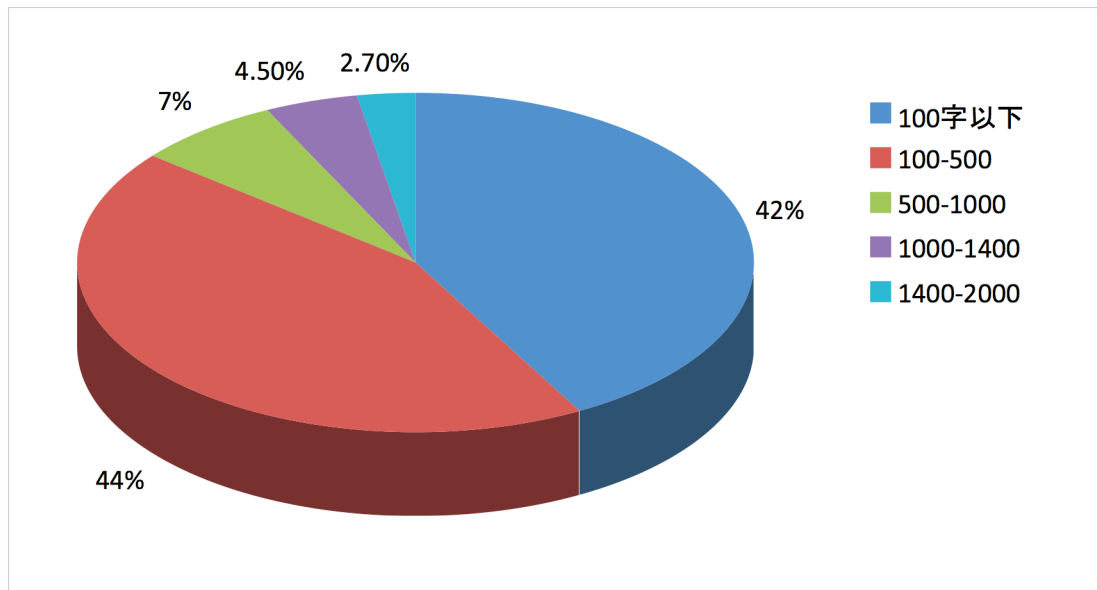
この質問は外国人と日本人の両方に聞いてみた。このグラフは、外国人の漢字読み能力である。回答者の17%が100字以下しか読めないと答えた。6割以上（63.4%）が100-500字で、6.25%が500-1000字読めると書いている。回答者の僅か8%が1000字-2000字で、約5%が2000字以上読めるようだ。厳しい言い方かもしれないが、大部分（約6割）の回答者は、日本での生活（特に日本の大学での生活）がうまくできないだろう。いわゆる教育漢字（1006字）を駆使できても、新聞や小説などは読めない筈だ。



グラフ『外国人の漢字読み能力』

外国人の漢字書き取り能力

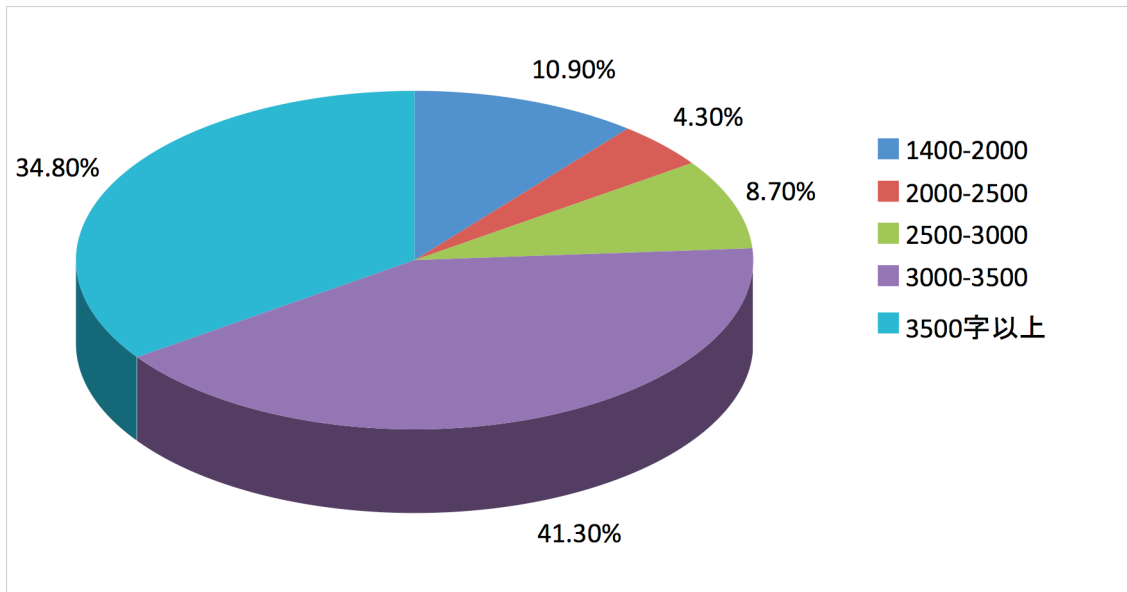
ここではさらに悩むべき結果が出た。回答した外国人の漢字の読み能力は不十分だと言いきれる。100 字以下しか書けない回答者は約 4 割（42%）で、100-500 字は 47%である。100 字以下と 100-500 字のグループを合わせると、89%という大きな数字になる。日本での生活を僅か 500-1000 字の知識で送らなければいけない回答者数は 7 %になる。1000～1400 字が書けると答えた者は 2.7%だ。要するに、大部分（約 9 割）の者が約 500 字しか自由に書けない。僅か 500 字の知識では、大学に入学もできないだろうし、漫画のような本でも、読んでいて困るようなレベルだろう。



グラフ『外国人の漢字書き能力』

日本人の漢字の読み能力

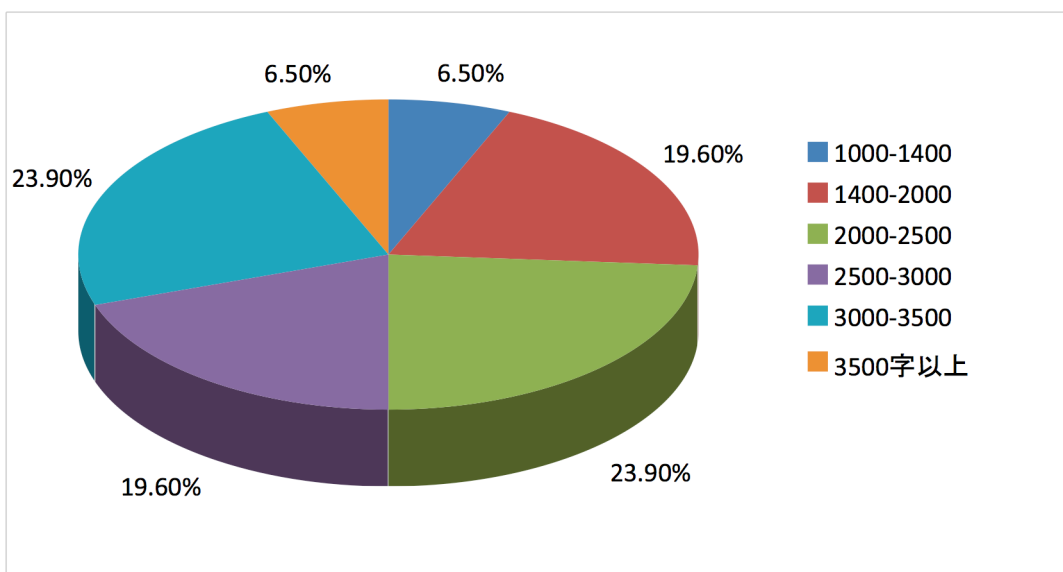
この質問に対する日本人回答者と外国人回答者は基本的に区別しない。但し日本人の場合、外国人より高い漢字能力を予想したので、オプションの漢字数が多い。予想通り日本人の漢字の読み能力は高いと言えるが、重要なのは、グラフの「1400～2000 字」というセクションだろう。このセクションでは、2000 字ではなく、「1400 字が読める」と特記した回答者が多いので、1400 字以下のレベルを作らなかったことを後悔している。高いレベルに集中せずレベルが低い調査対象者を無視しない方が良いだろう。



グラフ『日本人漢字読み能力』

日本人の漢字の書き能力

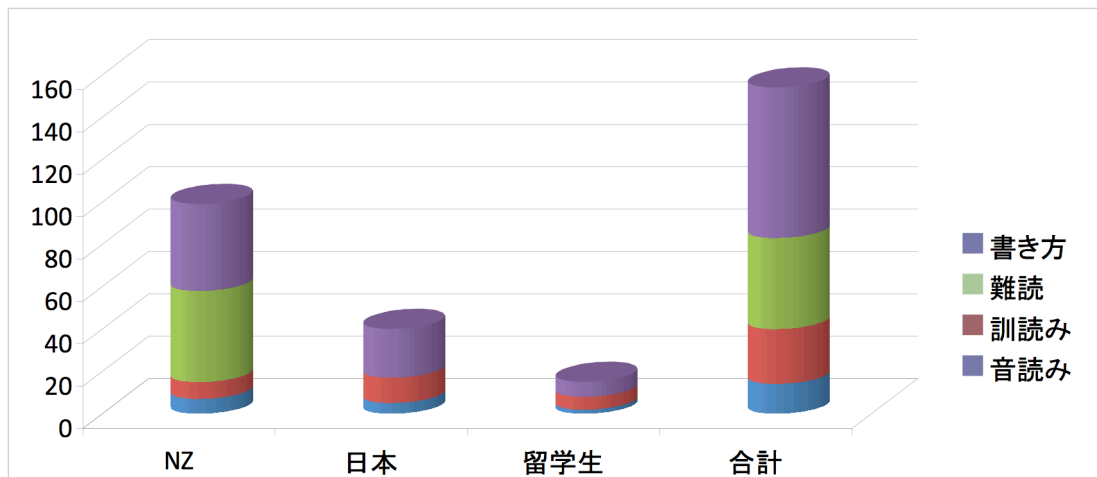
日本人の漢字の書き能力は、読み能力ほど高くないと予想した。結果は、大体予想通りだったが、やや低い漢字能力の割合が大きいのに驚いた。1000～1400字ほど書けるといいう答えは、多分ないと思っていたが、調査対象者の6.50%もが自分の能力をこのように評価している。後は約2割が「1400～2000字が書ける」と記入している。23.90%という多くの者が、2000～2500字書けると回答した。やはり能力の高いレベルより、低いレベルに焦点を当てるべきなのだろう。この調査対象者は日本語教育学部の学生なので、将来、日本や海外の小中学校、高校で日本語や日本に関することを教えることになる可能性が高いので、少々心配だ。



グラフ『日本人漢字書き能力』

漢字の難しい点

次のグラフは、日本人とオークランド大の学生と広島大学国際交流会館の留学生を対象とした調査結果をグラフに表したものだ。「漢字では何が一番難しいか」と尋ねた。回答者には、音読み、訓読み、難読、書き方という4つ選択選択肢から選んでもらった。どの調査でも、大体同じような比率が表れた。漢字の書き方と難読が、一番捉え難いと言える。書き方には漢字の書き順だけではなく、漢字の覚え方という側面もある。多くの回答者の簡単な説明、理由を分析すると、よく出る答え方が2種類ある。「漢字が多過ぎるため、似ている漢字が覚えにくい」と「普通、一つの漢字に読み方が2つ以上あるので困る」のような答えだ。



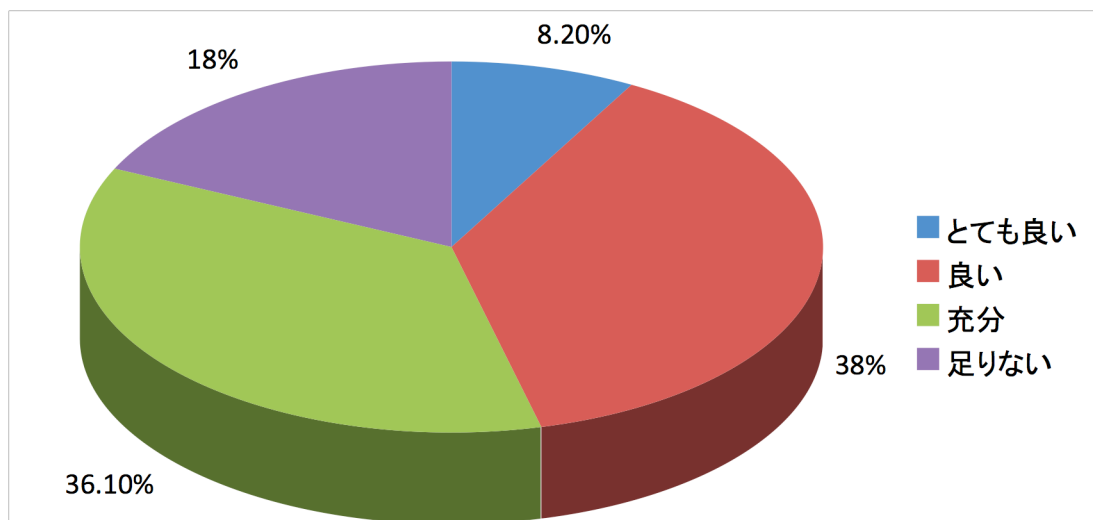
グラフ『漢字の難しい点』

漢字教育の評価

日本人とニュージーランドの大学生、そして広島大学国際交流会館の留学生に質問した結果とそのグラフを以下に示す。学校、大学で受けた漢字教育の評価だが、回答者の漢字教育に対する満足度が表れている。

漢字教育はとても良いと、8.2%が答え、最多数の38%が、良いと答えている。36%の回答者が充分だと答え、やや足りない・不十分の比率は18%となっている。「自分の受けた漢字教育は良かったと思う」と答えた回答者が多いのだが、その中には「どうしてそう思いますか？」という質問に、「大変だったから」とか「困ったから」という答えが非常に多いことに驚いた。特に多くの日本人の回答者は、質問の意図を誤解したようだ。他には「漢字練習が良かった」と答え、説明欄には「何度も繰り返したことでよく覚えられ

たから」と記入してはいるが、「書ける漢字は 1400～2000 字」と答えている回答者も若干名いる。



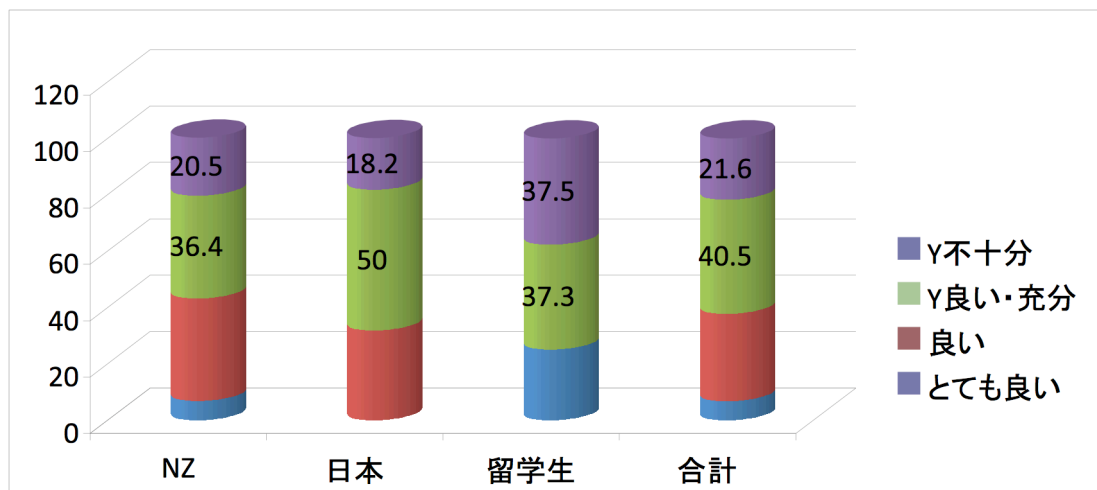
グラフ『漢字教育の評価』

漢字の難しい点と漢字教育の評価

漢字の問題点と漢字教育の評価について、前のページで示した集計結果をまとめたバージョンである。「漢字が一番難しい」と答えた回答者に注目し、漢字教育をどう評価しているかを考察した。それにより非常に重要な情報を得たと思える。オークランド大学の学生の2割（20.5%）、広島大学教育学部の学生の18.2%、広島大学国際交流会館の留学生の3割以上（37.5%）が、受けた漢字教育を「やや足りない」、あるいは「不十分」と答えている。以下はその理由の抜萃である（書き込みが英語の場合は翻訳した）。

- ・「先生は漢字の読み方しか教えないのに、生徒が漢字を覚えられると期待しているようだ。頑張っているが、覚えるのは大変だ。」
- ・「高校では漢字を余り勉強しなかった。それに、大学では漢字教育を余りやらない」
- ・「知っている漢字は少ない。簡単な文章しか書けない。」
- ・「授業では漢字練習の時間が5分もないので大変だと思う。」
- ・「先生は文法に集中し過ぎる」
- ・「簡単な反復練習ばかりだから」

- ・「練習が教科書に出て来た漢字に限られている。日本語では、教科書では普通使わない漢字もよく出てくる」
- ・「身に付かなかったから」
- ・「漢字が好きだから。もっと色んな漢字の読み書き等、覚えたいことは沢山ある」
- ・「小学校以外では余力を入れていないと思う。教科書でちょっと出るだけ」
- ・「高校では余り漢字をやらなかった」
- ・「中高においては特に漢字練習をしていないから」



グラフ『漢字の問題と漢字教育の評価』

全体の2割以上が「漢字教育がやや足りない」・「漢字教育が不十分」だと回答している。

要約、漢字教育の問題の解決のために

調査結果をよく考えてみていただきたい。日本について一番言いたいことは、「日本の漢字教育はダメだ」とか「反復習得法を使わないでこの本のやり方を無条件に使い！」ではない。「今使われている方法だけでなく、他の漢字習得法を使えば日本人全体の漢字と国語の能力を向上できる」ということだ。大学の外の環境と比べてほしい。例えば、オリンピック競技と比較したらどうだろう。オリンピック新記録や世界新記録を目指さない選手はいないだろう？それと同じで、なぜ漢字をもっと覚えさせるために新しい習得法や記

憶法を実験しないのだろうか？これは日本の将来に関わる問題だろう。日本は文化的にどんどん変質しているが、その変化は保守的と言える程度に抑えることが必要だ。そのような恐れはまだまだ余りないかもしれないが、もし万一、漢字がこのままどんどん減っていったら、大変な事態に陥るだろう。この研究で出た調査結果がその証拠だと思っていただきたい。日本の政府がすることはずっと応援するつもりなので、日本語教育の改善を期待する。漢字をもっと使わせたがっている政治家の運動に参加したいとも思っている。

外国については、もっと良い方法を採らねばならないと言い切ってもいいだろう。ニュージーランド以外の他の国の状況を調査することはできなかったが、ニュージーランドの現状を考えると、暗い気持ちになる。

今後はニュージーランド以外の国の現状も調査し、外国人のための日本文化と日本語の教育を今よりももっと素晴らしいものにしていきたいと思う。

以下の方々には特に感謝しております。

西原大輔先生

近藤玲子先生

朴卯娜さん

ピエカルスカー・アンナ博士

オークランド大学東洋学部の皆さん

広島大学教育学部の皆さん

広島大学留学生センターの皆さん

広島大学国際交流会館の皆さん